

みち
道

平成28年 3月

発行:

(社) 東京都社会福祉事業団
東京都東村山福祉園

メール mail@higashimurayama-f.org ホームページ <http://higashimurayama-f.org>



えんぶかい かいさい
エイサー演舞会を開催しました!

だいさんがかり
サービス第三係

2月21日(日)当園の体育室にて、「琉球國祭り太鼓東京支部」さんによる<エイサー演舞会>を開催しました。「琉球國祭り太鼓」は1982年に結成され、本来の旧盆行事としてのエイサーから、人に「魅せる」ための踊りを重視するようになった、創作エイサー団体です。その琉球國祭り太鼓東京支部さんが当園でエイサーを披露していただくのは今回で5回目となり、多くの利用者様が、毎年エイサーの踊りや音楽を楽しみにされています。今年も有名な『島唄』や伝統的な古典曲や沖縄のポップス曲に合わせて、旗頭、大太鼓、小太鼓などを使い素晴らしい演舞を魅せて下さいました。また曲に合わせて、利用者の皆様と一緒に思い思いの『カチャシー』を踊りました。「カチャシー」とは演奏に際して興が乗るにつれ、両手を頭上に掲げて左右に振り、足も踏み鳴らす踊りです。沖縄方言で「かき回す」という意味であり、頭上で手を左右に振るさまが、かき回すように見えるためにこの呼び名が付きしました。そして、途中登場した獅子に観客は大喜びで、獅子に近づいて触れ合ったりしていました。中には驚きを隠せない利用者様もいましたが、獅子に頭を噛んでももらったり、一緒に踊りに参加したりと、出演者や観客がひとつになり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

琉球國祭り太鼓東京支部さん、ありがとうございました。また来年も「めんそーれー」と言ってお迎えさせていただきます。



平成27年度 福祉保健局長賞を受賞しました。 福祉サービス課長

東村山福祉園では、自傷や他傷などの強度行動障害を伴う重度・最重度知的障害者の
方々の行動改善を図り、地域生活移行につなげていく取り組みに実績を上げており、紆余曲折を
経ながらも、平成15年から平成26年までの間に42名の地域生活移行を実現しています。

東村山福祉園における地域生活移行への取り組みは、平成15年に、東京都社会福祉事業団が
独自に「地域生活移行支援マニュアル」を整備したことを契機として、地域支援コーディネータ
ーを配置して地域関係機関との連絡調整を円滑に進めるための体制を確保すると共に、職員
宿舎を一部転用し、地域生活移行棟「ウィズ」を開設したことにはじまります。

地域生活移行棟「ウィズ」において、これまでの生活棟での暮らしとは違い、地域生活移行後
のグループホームでの暮らしにより近い環境の中での生活体験を積むことができるようになった
ことが功を奏し、利用者家族もそこでのご本人の生活の様子を見て、安心して地域生活移行を
進めることができるようになりました。

<Aさんの場合>

Aさんは、児童相談所からの措置で入所された方で、保護者からの経済的援助が期待できな
い方でした。このため、援護実施機関と話し合いを重ねて、生活保護受給と後見人制度を活用し
て、グループホームへの移行を実現しました。

<Bさんの場合>

Bさんは、物へのこだわりの強い方でした。生活棟という大きな集団の中での生活がBさん
にとって刺激になっていたようで、地域生活移行棟ウィズに移られてからはそのような行動もな
くなり、地域のグループホームへの移行を実現されました。

この度、こうした地域生活移行の取り組みが評価をされ、政策課題部門で27年度の福祉保
健局長賞を受賞する運びとなりました。このことは、学校や児童相談所、援護実施機関な
ど関係機関の皆様、そして、何よりも利用者家族の皆様の日ごろからのご理解・ご協力の賜物
と感謝しております。東村山福祉園では、これからも職員一同力を合わせて、「安心」「信頼」
「満足」のサービスを提供していきます。



●3/3 献立紹介● 【桃の節句】ちらし寿司・

もずく汁・鶏つくねバーグ・菜の花のからし和え・いちごと
バナナチョコ・ミニケーキ

栄養士より「女の子の無事な成長と幸せを願う行事
“ひな祭り”。当園にも33人の女の子!?が生活していま
す。ちらし寿司の上に飾ったえびは長生きの象徴で、
菜の花やいちごを使った春の献立でお祝いました。」

●お知らせ● 当園のホームページでは、地域公開講座等のご案内やスタッフブログ、
短期入所空き状況、事例研究発表等を更新しています。



利用者の皆様の骨密度測定を実施しました。

健康推進科

利用者の皆様の骨密度測定を、平成27年10月21日から11月6日までの間、インフルエンザ予防接種と併せて健康推進科で実施しました。

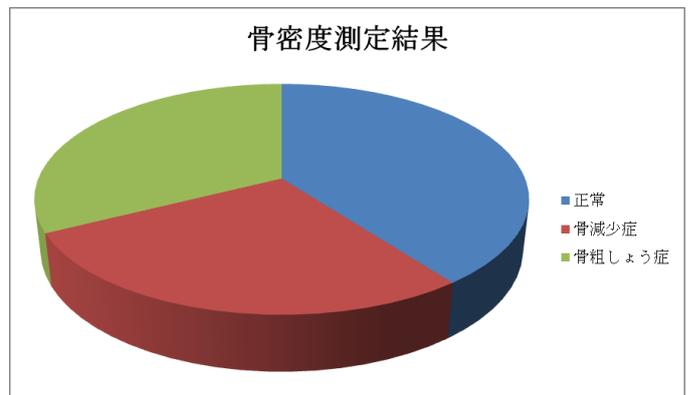
当園においては初の試みであることから、今回は、(1) 利用者の骨密度を図ることはできるか(2) その場合、どのくらいの割合の方ができるか(3) 利用者の骨密度はどのくらいの値を示しているのかを目的としました。また、測定には、日本光電超音波測定装置「びーなす」を使用しました。

生活棟の利用者のうち、実際に骨密度測定を行うことができた方は141名で、全体の約9割を占めました。判定区分では、正常(YAM値が80%以上)が60名、骨減少症(YAM値が70%以上80%未満)が42名、骨粗しょう症(YAM値が70%未満)が49名という結果となりました。一方、約1割の方が、椅子に座ってられない、じっとしてられない等の理由により、測定を行うことが難しい状況でした。

東村山福祉園では、このような骨密度測定の結果を踏まえ、リハビリ専門医による個別研修指導や研修会を継続的に実施してきています。

今後、リハビリ専門医の意見をふまえて、散歩や日光浴などを日中活動プログラムの中に積極的に組み込んでいくなど、利用者の皆様の健康増進の取り組みを強化します。

こつみつどそくていけっか



日中一時支援事業のご案内

東村山福祉園日中一時支援事業は、市区町村の地域生活支援事業のひとつとして、学校の長期休業期間の日中に、文化・作業・運動的活動の場を提供し、居宅生活を支援するサービスとして実施しています。

日中一時支援担当



<↑夏のプール>



平成27年度の日中一時支援事業も春を残すのみとなりました。今年度の活動を振り返ると、夏の日中一時支援では恒例のプールに入り、プールの後はかき氷をみんなで作り好きなシロップをたっぷりかけていただきました。冬の日中一時支援では、太鼓作りやカレンダー作りを支援者と一緒に取り組みでいました。また、ホットプレートを使いホットケーキを作ってデコレーションし、誕生月の方をお祝いしました。最近では、天気や気温の変化が激しく、冬とは思えない暖かい日もありました。春になって気温も上がり、ポカポカ陽気の中でみなさんと一緒に花見をしながらお散歩したり、体を動かしたりと、今、支援者で春の日中一時の活動について話し合っています。ご利用された方々が楽しい一日となるようにしていきたいとおもいます。今後ともよろしくお願ひします。

<←活動室>



今年度は入所利用者のご家族の皆様にご協力をいただき、昨年11月から12月にかけて利用者満足度調査を行いました。26名のご家族の方からご回答をいただきました。

お忙しい中ご協力いただき誠にありがとうございました。

結果の概要を、以下にご報告いたします。

1 職員の接遇について、お尋ねします。

(1) 職員から挨拶をしますか。(回答数)

- ①はい 21
- ②どちらともいえない 3
- ③いいえ 1
- ④わからない 0
- 無回答 1

(2) 職員の服装や身だしなみは適切でしょうか。

- ①はい 18
- ②どちらともいえない 7
- ③いいえ 0
- ④わからない 0
- 無回答 1

(3) 職員の言葉遣いや態度は適切でしょうか。

- ①はい 20
- ②どちらともいえない 3
- ③いいえ 2
- ④わからない 0
- 無回答 1

その他に、きちんと対応している、職員により個人差がある等のご意見をいただきました。

2 職員は、ご家族の皆様へお子様の日頃の様子を十分お伝えしていますか。

- ①十分伝わっている 5
- ②だいたい伝わっている 17
- ③伝えられるが不十分である 3
- ④全く伝えられていない 0
- ⑤わからない 0
- 無回答 1

その他に、問い合わせれば情報が得られるが、職員から積極的に情報提供してほしい等のご意見をいただきました。

3 日中活動や余暇活動について、どのような活動が必要と感じていらっしゃいますか。

日中活動については本人の特性に合った工夫をしている、バスバイクを楽しんでいる、本人の好きなこと(トランポリン等)や個性に合う活動を用意してほしい、外出・散歩・日光浴・園外活動を増やしてほしい等のご意見をいただきました。

4 その他、お気づきの点やご要望など

外出の機会を増やしてほしい、書類等は早めに送ってほしい等のご意見をいただきました。

それぞれ貴重なご意見として受け止め、対応を検討させていただき、利用者ご本人の希望や意向の実現に向けて支援を行っていきます。

園ではサービス向上のため今後も同様の調査を行っていきたく考えています。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

